

学校だより



市川市立平田小学校

いなほ
稲穂

学校教育目標

夢をもち、たくましく生きる
子どもの育成

令和5年9月15日

No.12

校長 蜂須賀 久幸

～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する 共に未来を創る～

<https://ichikawa-school.ed.jp/hirata-sho>

批判的に物事をみる力、納得するまで追究する力を！

現代では、自分で考えない子供が増えていると言われます。もしかすると、何かわからないことがあった時に、容易にインターネット検索などで答えを見つけられるという情報化社会の影響とも考えられています。そういう私も例外ではないかもしれません。だからこそ、「主体的な学び」「対話」を大事にした授業展開を通して、「自分で考える力」「自分なりの解を導く力」の育成に日々取り組んでいます。

この「考える力」を育むには、「批判的思考（クリティカルシンキング）」が大事だという見方があります。決してマイナス方向でネガティブな意味ではなく、目の前の事象を鵜呑みにしないで「本当に〇〇は～なのだろうか」と疑問を投げかけて、物事を様々な角度や切り口から判断する方法です。この「批判的思考」を身につけることによって、①物事を様々な角度から考えて、よりよい方法を導き出す発明的思考力、②必要な情報とそうでない情報を自ら判断して選択する能力、③幅広い視野・様々な視点から問題解決する能力などが伸びるといわれています。

例えば、夕食を急いで作りたいけれど、買い置きの食材が少ないケースで考えてみましょう。一般的には、「すぐ買い物に行けば食材が揃えられる」⇒「買い物に出かける」という行動をとります。筋道の通った解決策です。でもここで、「少ない材料や乾物などを工夫して使えば、おいしいものが作れるのではないだろうか」とか「急いでいるのに買い物に時間をかけたくないし、新しい食材を買うために出費する必要があるのだろうか」と疑問を投げかけるのが批判的思考のスタートといえます。結局、「やっぱり買い物には行かず、家にある物で料理するでしょう」となる場合もあります。思考過程において、論理的思考に客観性を組み合わせた批判的思考を行うことで、よりよい解決策を導き出すこともできるのです。

日本人は、この「批判的思考」が弱いといわれることがあります。先述のように、様々なメディアを通してありとあらゆる情報を得ることができる現代ですが、見聞きする情報が必ずしも正しいもの、よいものばかりとはいえません。意図的なフェイクも考えられますから、与えられた情報をなんでも無批判に受け入れるのは危険です。腑に落ちないあるいは疑問点があるようであれば、自分が納得するまで調べてみるのが求められます。こうした積み重ねで、自ずと批判的思考力が鍛えられるはずです。



ほかの人と話し合ったり、協力して何かを行ったりする場面でも、批判的思考は重要です。自分の意見ばかり主張せず、人との調和を重んじることは日本人の美徳といえますが、多数決や一般論ばかりでは馴れ合いが助長されます。納得いかない場合には、少数派であっても勇気をもって発言することで、問題解決の糸口が見つかるかもしれません。疑ってみたり確かめてみたりしながら、思考を組み立てる力を伸ばしていきたいと思うのです。

あいのままの自分を受け入れ、「自分を好き」と言えますか？

6月に全児童を対象とした「児童生活アンケート」を実施しました。学校生活や友達関係などで悩みを抱えていることはないか、誰に相談したいかなどを問うものです。そこに記載された内容をもとに6月後半から7月にかけて一人一人と面談をします。悩みや課題を感じている子には、寄り添い一緒に解決方法を考えていきます。こうしたことを年3回行って、揺れ動く一人一人の気持ちや人間関係に目をやっています。

このアンケート項目の一つに、『自分のことが好き』という設問があります。昨年度までは、『自分にはよいところがある』という文言でしたが、なかなか難しかったようで、尋ね方を変えて調査してみました。

昨年度同時期に実施した回答で、指標が51～100の肯定評価の割合は49.7%でした。10月下旬の調査では56.6%に肯定回答が伸びていましたが、設問が変わった今年度は果たしてどうだったでしょうか。

下の表をご覧ください。

学校生活アンケート（6月）

『自分のことが好き』の「好き」を100として数値バーで表そう

	0 (ない)	50より 小	50	50より 大	100 (ある)
1年生	7.2%	8.7%	31.9%	18.8%	33.3%
2年生	11.9%	0%	27.1%	16.9%	44.1%
3年生	2.8%	9.9%	35.2%	15.5%	36.6%
4年生	13.2%	8.8%	38.2%	23.5%	16.2%
5年生	9.9%	21.0%	34.6%	17.3%	17.3%
6年生	9.8%	4.9%	39.3%	19.7%	26.2%
たんぽぽ	6.9%	0%	20.7%	6.9%	65.5%
4くみ	14.3%	14.3%	42.9%	0%	28.6%
全体	9.0%	9.0%	33.7%	17.5%	30.8%

「好き」を仕事に！

将来なりたい職業として、子供たちは今どんな夢を描き、そのために何を考え、学んでいるのでしょうか。「こんな仕事もある」「働くとはこんなこと」というヒントを、ここでは2つ紹介します。

【災害救助犬訓練士】

災害救助犬とは、優れた嗅覚を生かし、地震や津波、土砂災害などで崩壊した建物や土砂から埋もれてしまった人を探す犬を指します。その訓練士は、救助犬と一緒に人を探すだけでなく、そうした犬の訓練をして、現場で活躍できるように育てる役割も担っています。災害大国の日本では、救助犬や訓練士の必要性が高まっているといえます。

【客室乗務員(CA)】

飛行機に乗った乗客が安全かつ快適な旅ができるように、機内で様々なサービスを提供する仕事です。飲食の提供や機内アナウンスのほか、離陸前の安全確認、急病人の応急処置など乗客の保安業務を行っています。客室乗務員というと女性のイメージが強い仕事ですが、最近では男性も増えているそうです。

(参考・引用：「倫風」7,8月号)

